

法文学部というより重量挙げ部出身

大学では新しいことを経験したかったので、九州の大学は選択肢になく、また法律を勉強したいと思い、当時、中四国地方の国立で唯一法学科のあった岡大に進学しました。大学では重量挙げ部に所属していました。入学時には体重60キロで、ガリガリ。よく「バーベルの棒」とからかわれたものです。自分でも向いているとはあまり思っていなかったのですが、練習に明け暮れた結果、3年生になる頃には120キロのバーベルを挙げ、主将を務めるまでになりました。学生時代はひたすら部活で練習していたので、「岡大法文学部の出身」といわれるよりも、「岡大重量挙げ部出身」といわれたほうがしっくりくるぐらいです(笑)。

自転車でアメリカ一周

じつは、岡大には6年いました。いろいろな理由はあるのですが、「自分に何ができるのか」という迷いがあったことがいちはん大きい。私が入学したのは70年安保の翌年。当時の学生たちは政治運動のただなかにあつて「社会とは何か」「自分に何ができるのか」そんなことを否応なしに考えさせられたのです。

2年生の夏休み、九州を自転車で一週。それがきっかけで、5年生の頃、自転車でアメリカを一週しました。ロサンゼルスから出発し、アメリカを北回りで巡り、またロスに帰ってくるという旅でした。二ヶ月半、観光名所など脇目もふらず、ただひたすら自転車漕いでいました。先に九州を一週していた

岡大異ベンチャーな人紹介

梅田 一郎さん

ファイザー株式会社代表取締役社長



世界最大の製薬企業・ファイザー。同社の日本法人代表取締役社長として采配を振り、グローバルに活躍されている梅田一郎さんに学生時代の思い出や経営にかける思いについて語っていただきました。

ので、ロスに着いたときも、特別な感慨などはなかったのですが、二度の自転車旅行を通じて、「自分には何がができる」という自信がついたように思います。

人を助ける仕事に誇り

大学を卒業し、しばらく先輩の仕事を手伝った後、27歳で今の会社に入りました。配属されたのは今でいうMR\*で、移り変わりの早い医薬品の知識が求められるので、常に勉強しなければなりません。逆に言えば勉強すればするほどいいMRになれるわけで、これは面白いなと感じました。とはいえ、最初の一年ほどは芽が出ず、苦しい思いもしました。

転機となったのは、多忙でめったに会えない医師が時間を作って勉強会に参加しているのを見たこと。彼らはそこまでして勉強し、多くの人を助けようとしている。そんな医師たちの役に立てることは素晴らしいと感動し、MRという仕事に誇りとやりがいを持つようになりました。

使命は「人を育てること」

社長に就任したとき、前任の社長に最初に言われたのは「次の社長を決めなさい」ということ。次代を担う人材を育て、160年以上の歴史があるこのファイザーという会社を受け継いでいくのが私の社長としての使命で

す。そのために、若手社員にどんどんチャレンジするチャンスを与えるなど、人が育つくみを整備していきたいと考えています。

グローバルにチャレンジを

学生に限らず、日本の若者は世界に目を向けず、内向きになっていると感じます。別に社長になるとか大げさなことでもありません。自分がチャレンジしたいことを見つけたら、自らの言葉の通じない海外の社会に飛び込んでみることで、世界の中の日本を見つめ直すことができますし、自らにとって大きな経験も得られますからね。

- ▶梅田 一郎 (うめだ いちろう)
- 大分県大分市出身
- 1952 (昭和27) 年生まれ
- 1971 (昭和46) 年 岡山大学法文学部法学科入学
- 1977 (昭和52) 年 岡山大学法文学部法学科卒業
- 1980 (昭和55) 年 台糖ファイザー (現・ファイザー) 株式会社入社
- 2009 (平成21) 年 同社代表取締役社長就任

\*MR…医薬情報担当者。医師など医療従事者に自社の医薬品情報を提供すると同時に情報を収集することを業務とする。